

前回の振り返り、進める会の開催概要

令和5年3月27日

令和4年度懇談会等の開催状況

第4回懇談会（令和4年7月20日）

参加者：学識者、沿川自治会、関係団体（利活用、商工観光関係）、千葉県葛南土木事務所、市

- ① 前回までの振り返り
- ② 「かわまちづくり」の協議会について
- ③ 市の考えるスケジュール（案）
- ④ 現在進行中の活動報告
- ⑤ 意見交換 テーマ1 「どのようなグループでこれから議論していったらよいか？」
- ⑥ 意見交換 テーマ2 「参加したいグループの調整と新しいグループでの意見交換」



第5回懇談会（令和4年8月4日） 中止※

参加者：学識者、沿川自治会、関係団体（利活用、商工観光関係）、千葉県葛南土木事務所、市

- ① 前回の振り返り
- ② 江戸川区新川の現地視察

※全国的な新型コロナウイルス感染者急増のため



プレ（仮称）勉強会（令和4年9月8日） （仮称）勉強会運営のシミュレーション

参加者：関係団体（利活用、商工観光関係）、市

- ① 自由意見交換 「（仮称）勉強会の活動内容、拡充したい取り組み等」



令和4年度懇談会等の開催状況

第5回懇談会（令和4年9月20日）

参加者：学識者、沿川自治会、関係団体（利活用、商工観光関係）、千葉県葛南土木事務所、市

- ① 前回の振り返り
- ② プレ（仮称）勉強会の開催状況
- ③ （仮称）勉強会について
- ④ 意見交換 「（仮称）勉強会のあり方と名称」について



第6回懇談会（令和4年11月28日）

参加者：学識者、沿川自治会、関係団体（利活用、商工観光関係）、千葉県葛南土木事務所、市

- ① 前回の振り返り
- ② 今後のスケジュール
- ③ （仮称）勉強会について
- ④ 事例紹介
- ⑤ かわまちづくり計画の構成



第1回境川かわまちを進める会 合同開催（令和5年1月15日）

参加者：沿川自治会、関係団体（利活用、商工観光関係）、市

- ① 事務局説明
 - 1) 境川修景整備等の経緯と「かわまちづくり」の必要性
 - 2) 「かわまちづくり」とは
 - 3) 境川かわまちづくりの検討経緯
 - 4) 境川かわまちづくりの推進体制
- ② 質疑・応答
- ③ テーマ毎のディスカッション



令和4年度進める会等の開催状況

第2回進める会 テーマ別開催（令和5年3月4日）

参加者：沿川自治会、関係団体（利活用、商工観光関係）、市

- ① テーマ別議論
 - 1) 「テーマに沿った境川で行いたいこと」
 - 2) 「今後の境川かわまちを進める会で議論したい内容」
- ② テーマの役割決め・参加メンバー間による連絡先の交換



第7回懇談会（令和5年3月27日） 本日

参加者：学識者、沿川自治会、関係団体（利活用、商工観光関係）、千葉県葛南土木事務所、市

- ① 前回の振り返り、進める会の開催概要
- ② これまでの意見のまとめ
- ③ 境川かわまちづくりの「基本方針（素案）」
- ④ 質疑応答・全体討議
テーマ 境川かわまちづくりの「基本方針」について

第6回懇談会の振り返り

1 開催日時 令和4年11月28日（月） 午前14時00分～午後16時00分

2 開催場所 浦安市消防本部 3階多目的ホール

3 出席者

学識者 2名

沿川自治会 代表者 7名

関係団体 代表者 7名

河川管理者 2名

事務局 9名

事務局補助 4名

4 次第

① 開会

② 前回の振り返り

③ 今後のスケジュール

④ 事例紹介

休憩

⑤ 質疑応答・全体討議

⑥ かわまちづくり計画の構成

⑦ その他



懇談会 開催状況



懇談会 開催状況

- 「かわまちづくり」の活動の展開や継続
- 協議会の運営

についての質疑

Q. 「かわまちづくり」などを進めている地区では、どのようにして活動している方たちのアイデアがまとまり、市民の意向と従来の活動が絡み合うような展開になったのか。

A. ある川では、かわまちづくりを進める下流側と川の環境を支える上流側が交流し考えを共有した。また、ある川では、行政側が川を見えなくしているコンクリート壁を取り除くという話から、市民が川沿いに桜を植えようと募金を始め、その募金で苗木を購入した。

Q. 協議会の運営には相当の事務量が発生すると思うが、実際には誰が中心となって進めているのか。

A. 最初は行政（市）が中心となり事務局として協議会の運営を行うとともにスロープや栈橋の整備など、一定の予算を付けて新たな活動の入口を用意している事例がある。

Q. 事例では川だけでなく、公園などまちづくりの中で活動が広がっているが、「かわまちづくり」はどのような重みがあり、どこまでできるのか。

A. 川の中だけではなく、その外側に滲み出る活動は自由に発想してよい。協議会ができると、公園利用など1団体では難しかったこともやりやすくなる。

Q. 活動するには費用がかかる。去年のかわまち大賞の事例では、民間事業者が入りその利益を上手く使うスキームになっているように思うが、費用についてはどう考えるか。

A. 収入を得る方法は千差万別であり、決まりはない。何で収入を得るかは創意工夫も必要である。ある川では、河川で物販する場合は、その収益の一部を協議会に納めている。それを活動費に充てている。

- まちや他の河川、海への展開
 - 継続的な活動とその運営資金
- ### についての意見

川だけでなく、周辺のまちづくりを含めて活動を広げていくのであれば、元町地域の昔の漁師町の面影が残るところは、路地と空間を繋ぎ回遊性を高めてまち側へ広げるとか、中町地域や新町地域は公園など含めてかわまちづくりの活動を広げていくことが考えられる。

境川が背骨だとすると見明川や三番瀬の干潟、あるいは東京湾が肋骨になる。そのくらいのスケールでやらないとただ境川を何とかしましょうという事だけになってしまう。

公園などのオープンスペースとの連携も水と緑という発想の中で考えた方がよい。

協議会での活動には費用が発生するが、ボランティア的な活動は、今は非常に難しい。活動の実効性を確保するためには、収益を得られるスキームが必要ではないか。

修景整備された境川に人が通らないのは、お店がないからだと思う。

春まつり（カフェテラスin境川）の時にエリアでない場所でも商売をしている人がいた。境川で継続的に何か行えば、お店をやる人が現れるではないか。

活動の広げ方や継続方法、協議会の運営についての質問や意見



参加者が自ら計画を作成し、実行していく機運が醸成されつつある



懇談会から次のステージで実際に取組みを行っていく

第1回境川かわまちを進める会の開催概要

1 開催日時 令和5年1月15日（日） 午前14時00分～午後16時00分

2 開催場所 浦安市役所4階 S2～S4会議室

3 出席者

沿川自治会	9名	境川で遊ぼう実行委員会 1名 浦安水辺の会 <u>4名</u> 浦安市カヌー協会 <u>2名</u> ふるさと浦安かっぱ村 <u>2名</u> うらやす景観まちづくりフォーラム 1名 みどりのネットワーク 1名 <u>(新) 明海の丘夏祭り実行委員会 1名</u> <u>(新) 境川にこいのぼりを泳がせる会 1名</u>
関係団体	13名	
事務局	7名	
事務局補助	4名	

4 次第

① 開会

② 事務局説明

1) 境川修景整備等の経緯と「かわまちづくり」の必要性

2) 「かわまちづくり」とは

3) 境川かわまちづくりの検討経緯

4) 境川かわまちづくりの推進体制

休憩

③ 質疑応答

④ テーマ毎のディスカッション

⑤ その他

水・自然環境

歴史・文化

水辺・水面の利用

3テーマ合同開催



進める会 開催状況

②事務局説明は、
YouTubeチャンネル
で動画配信しています。
右の二次元コードで
ご覧いただけます。



浦安市公式
YouTubeチャンネル

各テーマの主な意見（第1回進める会）

水・自然環境

- 「川をきれいにする」ことをテーマにディスカッションをした。
- 水質を改善するため、水門の開閉回数を増やしたり、ポンプ排水を行うなどして水の流れをつくる。水門の開閉はAIを使って自動化したらどうか。
- 雑排水の流れ込みがあるので、下水の問題をクリアする。
- 浄化槽を整備し、流れ込む水の水質改善が急務と思われる。
- 団体同士で連携して境川のクリーンアップなどを通じて、生物が戻ってくるような環境にする。
- 境川や三番瀬でクリーンアップを行っているが、カヌー協会と引き続き協力して、生物が戻ってくるような環境にする。
- こどもたちに生物を見せたり、生物多様性などの教育材料となるように境川を変えていく。



各テーマの主な意見（第1回進める会）

歴史・文化

- まち案内、案内板、写真展などで、歴史と文化を伝える。
- ストリートパフォーマンス、ミュージシャン、市(いち)等のイベントを行う。
- こいのぼりの飾りつけは、現在行っている中町地域以外でも行う。
- 船から景色を見ながら境川を案内をする。
- 「歴史・文化」を感じさせる歩きやすく歩いて楽しい道をつくる。
- 川沿いの景観のルールづくりをする。
- 草花を植えて管理していく。
- 護岸高を低くする。こども目線の護岸も大事。



各テーマの主な意見（第1回進める会）

水辺・水面の利用

- Aゾーン（西水門～新橋）の地盤が低く、水害のリスクがある。
- 水面を活用するためには、水のきれいさと、水位を考慮した防災対策が前提となる。
- 川沿いに千本桜を植えられ、イベントもたくさん行われている江戸川区の新川のような賑わいがAゾーン（西水門～新橋）にできたらよい。
- 川と海がつながっていることが、境川の特徴である。川と海をつなげるという意味で、高洲の船溜まり（境川河口部）も境川の活用につなげていきたい
- 多くの人が集まれるように施設等を整備するときは必ず駐車場も整備していく。



第2回進める会の開催概要

1 開催日時 令和5年3月4日(土) 午前13時00分～午後18時00分

2 開催場所 浦安市役所4階 S2～S4会議室

3 出席者 沿川自治会と関係団体で延べ43名が参加

テーマ毎に時間をかえて開催。
テーマを重複して参加可能としている。

1) 歴史・文化

(13:00～14:30)

沿川自治会	0名
関係団体	10名
事務局	4名
事務局補助	3名

2) 水辺・水面の利用

(14:45～16:15)

沿川自治会	0名
関係団体	16名
事務局	4名
事務局補助	3名

3) 水・自然環境

(16:30～18:00)

沿川自治会	3名
関係団体	14名
事務局	4名
事務局補助	3名

参加団体

・境川であそぼう実行委員会	2名
・うらやす景観まちづくりフォーラム	1名
・浦安水辺の会	5名
・浦安市カヌー協会	1名
・ふるさと浦安かっぱ村	2名
・みどりのネットワーク	8名
・(新) NEXT30	4名

4 次第

① テーマ別議論

- 1) 「テーマに沿った境川で行いたいこと」
- 2) 「今後の境川かわまちを進める会で議論したい内容」

② テーマの役割決め・参加メンバー間による連絡先の交換

・「私たちが」を主語にして議論

・各テーマの連絡調整役の決定
・メンバー間の連絡方法の確認

第2回進める会の開催概要

開催状況

歴史・文化

全景



Aグループ



Bグループ



水辺・水面の利用

全景



Aグループ



Bグループ



Cグループ



水・自然環境

全景



Aグループ



Bグループ



Cグループ



第2回進める会の開催概要

発表用模造紙

歴史・文化

歴史・文化 (B10-7)
 の境川、重要性を認識して 3件同時一緒に
 歴史を伝承してゆく

[内容]

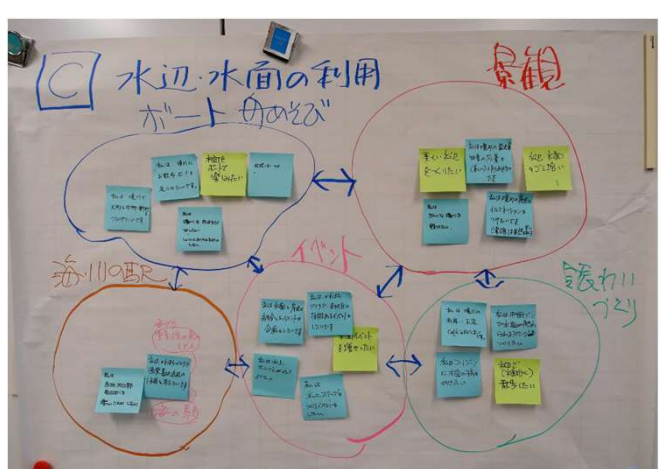
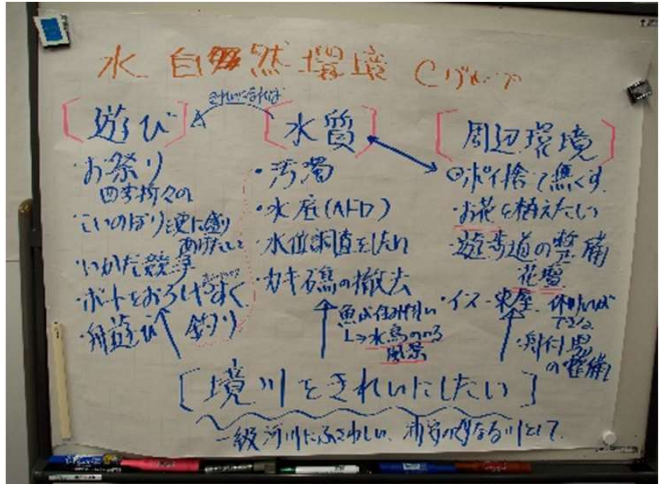
- ・境川・水運: バイク、水バス、観光船
- ・植民地時代の街並: 昔の街、生活の再建(水公園) 復元
- ・親水性: 坂-ポト、子供のための水公園
- ・観光: TDRとのコラボ、浦安の名産

* NPO 法人の立ち上げ

水辺・水面の利用



水・自然環境



各テーマの主な意見（第2回進める会）

歴史・文化

- 元町、中町、新町を繋ぐのは境川である。境川の役割として、3つのまちを統合していく一つのシンボルと考えたらいいのではないか。
- 元町だけではなく、中町、新町の前風景を伝えていくことも大事である。
- 昔の写真を見せたり、べか舟を定期的に運航するなど、前風景を伝えていくことは、歴史・文化の学びに繋がる。
- 灯ろう流しや水神祭などのイベントを通じて境川の歴史を伝えていく。
- 境川の使い方や周辺の景観などに関するルールづくりをする。
- 境川の重要性を認識して、子どもたちと一緒に歴史を伝承していく。

各テーマの主な意見（第2回進める会）

水辺・水面の利用

- ボート・舟遊びのための船着場を作る。船着場は防災拠点にもなりえる。
- すでに境川で行われているイベントの年間スケジュールを作成したり、境川にアクセスしやすい施設をつくるなど、既存の活動が行いやすくなるようにかわまちづくりの制度を活用する。
- アートやマラソン、ウォーキング、コンサートなどのイベントの実施方法について議論していきたい。
- 市民意識の醸成として水上スポーツの聖地にする。カヌーの授業を行う。
- カフェ、屋台、テラス、川の駅、海の駅などがあれば川自体が賑わってくる。これらの運営方法について議論していきたい。

各テーマの主な意見（第2回進める会）

水・自然環境

- 境川の水をきれいにするために水門の開閉やポンプを使って水の流れを作ることを検討する。
- ごみ拾いもみんなでやらなくてはならない。ごみのポイ捨てをなくしたい。
- 水底にあるヘドロがにおいや汚濁の原因になっていることが懸念されるため、ヘドロはすくった方がいい。
- 境川に生息する希少植物であるリュウノヒゲモの実物展示を行う。
- 水と花と緑のネットワークづくりということで、市民花壇、家族でつくる花壇、市外の人と一緒にできたらいい。
- 境川の生物を見られる「境川水槽」をつくるなど、子ども達と一緒に自然観察ができる、学んでいく場を作りたい。